

今日は I 列王記8章後半31-66節から「祈りの家」と題して3つの点でみことばを取り次ぎます。

## 1. 罪の赦しの祈り 31-40

8章はソロモンが建てた神殿の奉献式の時の出来事です。8章前半で見たように、まず神殿の至聖所に契約の箱が運び込まれました。次にソロモンは民を祝福しました。そして22節からソロモンの奉献の祈りが始まりました。今日はソロモンの奉献の祈りの後半から奉献式の終了まで見ていきます。

31-32【31 ある人が隣人に罪を犯して、のろいの誓いを立てるよう求められ、この宮の中にある、あなたの祭壇の前に来て誓うなら、32 あなたご自身が天でこれを聞き、あなたのしもべたちにさばきを行って、悪い者にはその生き方への報いとしてその頭上に悪を下し、正しい者にはその正しさにしたがって義をもって報いでください。】これは正しいさばきを神に求める祈りです。隣人同士に争いがあり、どちらが罪を犯したのかははっきりしない時は、疑われている人は主の宮の祭壇の前で神の前に誓いを立てます。そして、神ご自身が二人を正しくさばかれ、正義が行われるようにとの祈りです。

33-34【33 あなたの民イスラエルが、あなたの前に罪ある者となって敵に打ち負かされたとき、彼らがあなたに立ち返り、御名をほめたたえ、この宮であなたに祈り願うなら、34 あなたご自身が天でこれを聞き、あなたの民イスラエルの罪を赦し、あなたが彼らの先祖にお与えになった地に、彼らを帰らせてください。】これは戦いに敗れた時の祈りです。イスラエルが敵に敗れる理由は、イスラエルに罪があるからです。旧約時代は神に従う時には祝福が与えられ、神に逆らう時には災いが下ることが明確に結びついています。そこでこの宮で祈り、敗戦の理由となっている罪を神の前に悔い改めるなら、罪を赦して捕虜を戻してくださいと祈ります。

35-36【35 彼らがあなたの前に罪ある者となって、天が閉ざされ雨が降らなくなったとき、彼らがこの場所に向かって祈り、御名をほめたたえ、あなたが苦しめたことによって彼らがその罪から立ち返るなら、36 あなたご自身が天でこれを聞き、あなたのしもべたち、あなたの民イスラエルの罪を赦してください。彼らの歩むべき良い道を彼らに教え、あなたの民に相続地としてお与えになったあなたの地に雨を降らせてください。】これは干ばつの時の祈りです。干ばつの理由も、イスラエルが神に逆らい罪を犯したからです。そこでまずイスラエルがこの宮で罪を悔い改め、正しい道に立ち返るなら、彼らの罪を赦し、雨を降らせてくださいと祈ります。

37-40【37 この地に飢饉が起り、疫病や立ち枯れや黒穂病、いなごやその若虫が発生したときでも、敵がこの地の町々を攻め囲んだときでも、どのようなわざわい、どのような病気であっても、38 だれでもあなたの民イスラエルが、それぞれ自分の心の痛みを知って、この宮に向かって両手を伸べ広げて祈るなら、どのような祈り、どのような願いであっても、39 あなたご自身が、御座が据えられた場所である天で聞いて、赦し、また、かなえてください。一人ひとりに、そのすべての生き方にしたがって報いでください。あなたはその心をご存じです。あなただけが、すべての人の子の心をご存じだからです。40 そうして、あなたが私たちの先祖にお与えになった大地の上で彼らが生き続ける間、いつもあなたを恐れるようにしてください。】

これは様々な災いが起きた時の祈りです。飢饉、疫病、立ち枯れ、黒穂病、害虫、敵の攻撃、病気などどんな災いが起きても、まずこの宮に向かって祈り、原因となる罪を悔い改めます。そうすれば神は赦し、災いから一人ひとりを救ってくださいと祈ります。あらゆる災いは民の罪に対する神のさばきの警告です。民が神を恐れ、罪を悔い改める時に、取り除かれるのです。

このように旧約時代は、すべての災いが罪に対する神のさばきであることが直接的に、明確な形で表されます。一方、新約時代は罪と災いの関係が旧約時代のようにはっきりとつながっていません。たとえば、私たちが病気になる時、通常は私たちの犯した罪の直接的な結果ではありません。東日本大震災の時に、あるキリスト教団体が、震災の原因は罪にあるのだから、罪を悔い改めなさいと伝道したと聞きました。しかし、そのようなメッセージは正しくはありませんし、被災地の人々の慰めにも励ましにもなりません。災いと罪の関係は旧約時代のように直接的ではないのです。しかも未信者の人に対して、災いと罪を関連させて伝えることは、誤解を与え、かえって福音に対して心を閉ざす原因を作ってしまうので、気を付けなければなりません。

ではクリスチャンは罪の悔い改めをどのように考えればよいのでしょうか。新約時代に生きる私たちは、災いの時も祝福の時も、いつでも自分の罪を悔い改め、神の赦しをいただきながら歩みます。この世的に祝福されているからと言って、罪と無関係に歩んでいると思てはいけません。また様々な災いや苦難を経験しているからと言って、それらをことさら特定の罪と関係づけて、自分を苦しめる必要もありません。主の祈りの中で「私たちの負い目をお赦しください」と祈ります。私たちはいつも自分の心を探り、罪を示されたら、すぐに神に告白し、悔い改めて、イエスの尊い血による赦しときよめをいただいて歩むことが大切なのです。

## 2. 祈りの家 41-53

41-43【41 同様に、あなたの民イスラエルの者でない異国人についても、その人があなたの御名のゆえに、遠方の地から来て、42 彼らが、あなたの大いなる御名と力強い御手と伸ばされた御腕について聞き、やって来てこの宮に向かって祈るなら、43 あなたご自身が、あなたの御座が据えられた場所である天でこれを聞き、その異国人があなたに向かって願うことをすべて、かなえてください。そうすれば、地上のあらゆる民が御名を知り、あなたの民イスラエルと同じようにあなたを恐れるようになり、私が建てたこの宮で御名が呼び求められなければならないことを知るでしょう。】

これは異国人のための祈りです。天地を造られたまことの神は、イスラエルだけでなく、すべての人にとってもまことの神です。ソロモンは自分が建てた神殿はイスラエル人だけでなく、異国人にも開放されていることを祈りの中で伝えます。そして異国人が遠方からこの宮に来て祈るなら、彼らの願いをかなえてくださいと祈ります。そうすれば地上のあらゆる民が主なる神を知り、神を恐れ、神殿で祈ることのすばらしさを知ることができると祈ります。イスラエルは神殿を建てることにより、「あなたがたは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる」と神がモーセに語られたとおり、世界の民のために祈り、神を証する祭司となるのです。

44-45【44 あなたの民が敵との戦いのために出て行くとき、遣わされる道で、あなたがお選びになった都、私が御名のために建てた宮に向かって主に祈るなら、45 天で彼らの祈りと願いを聞いて、彼らの言い分を聞き入れてやってください。】これは戦いのときの祈りです。旧約時代のイスラエルの戦いは、神の命令を受けた聖なる戦い、いわゆる聖戦です。神が神の民イスラエルを聞いて、神に逆らう民をさばくという戦いです。ですからイスラエルの敵は神の敵であり、「遣わされる道」とあるように、神に遣わされ

てイスラエルは戦います。その時、民が遣わされる道で神殿に向かって主に祈るなら、その祈りを聞いてくださいと祈りました。

旧約聖書には戦いがたくさん出てきます。旧約時代は神のさばきは直接的であり、神がイスラエルを通して、神に逆らう民をさばかれます。一方、新約聖書には神の民である教会に対して、人と人との戦いを教える箇所は一つもありません。新約の戦いは、霊的戦いであり、神に逆らう悪魔と悪霊に対する戦いであると教えます。ですから、迫害の時もクリスチャンは非暴力を貫き、殉教さえ受け入れました。先日の受難週に、ローマ教皇が「イエスは戦争を拒絶される。誰も戦争の正当化にイエスを利用することはできない」と言いました。そのとおりだと思います。政治家は戦争をする時、宗教を用い、キリスト教も用います。その場合、旧約聖書の戦いについてのみことばを根拠にする場合があります。しかし、新約聖書において戦争を肯定する箇所はないことを覚えましょう。教会も戦争に加担することがないように気を付けなければなりません。

46-50【46 罪に陥らない人は一人もいません。ですから、彼らがあなたの前に罪ある者となったために、あなたが怒って彼らを敵に渡し、彼らが、遠くであれ近くであれ敵国に捕虜として捕らわれて行き、47 捕らわれて行った地で我に返り、その捕囚の地であなたに立ち返ってあわれみを乞い、『私たちは罪ある者です。不義をなし、悪を行いました』と言い、48 捕らわれて行った敵国で、心のすべて、たましいのすべてをもって、あなたに立ち返り、あなたが彼らの先祖にお与えになった彼らの地、あなたがお選びになったこの都、私が御名のために建てたこの宮に向かって、あなたに祈るなら、49 あなたの御座が据えられた場所である天で、彼らの祈りと願いを聞き、彼らの訴えをかなえて、50 あなたの前に罪ある者となったあなたの民を赦し、あなたに背いた、彼らのすべての背きを赦し、彼らを捕らえて行った者たちの前で彼らをあわれみ、その者たちがあなたの民をあわれむようにしてください。】

これは捕囚の時の祈りです。神はイスラエルの民が罪を犯すとき、異邦人を用いてさばかれます。実際イスラエルは罪を犯した結果、アッシリア捕囚とバビロン捕囚を経験しました。しかしソロモンの祈りのように、ダニエルはバビロンでエルサレムに向かって、罪を告白して祈りました。ユダヤ人がバビロンで罪を悔い改め、神に立ち返った時、神はユダヤ人をエルサレムに戻されました。

51-53【51 彼らはあなたの民であり、あなたがエジプトから、鉄の炉の中から導き出された、ご自分のゆずりの民だからです。52 どうか、あなたのしもべの願いと、あなたの民イスラエルの願いに御目を開き、彼らがあなたを呼び求めるとき、いつもその願いを聞き入れてください。53 あなたが彼らを地上のあらゆる民から選り分けて、ご自分のものとされたのですから。神、主よ。あなたが私たちの先祖をエジプトから導き出されたとき、あなたのしもべモーセを通してお告げになったとおりです。】51-53はソロモンの祈りのまとめです。ソロモンは神の選びの民であるイスラエルの祈りを聞いてくださいと改めて祈りました。

ソロモンの祈りを通して、神殿は祈りの家であることを覚えます。イザヤ56:7には「わたしの家は、あらゆる民の祈りの家と呼ばれる」とあります。イスラエル人だけでなく、異国人にも開かれた祈りの家であることをソロモンは祈りを通して表しました。新約時代には神殿に代わって教会があります。教会はあらゆる民の祈りの家です。私たちは教会が祈りの家であることを意識しましょう。そして、ソロモンの祈りを模範にしましょう。礼拝に来たら、礼拝前に祈りの時を持ちましょう。神への感謝、罪の悔い改め、願いを祈り、みことばを待ち望んで礼拝に臨みましょう。また祈禱会に出席し、とりなしの祈りをしましょう。

### 3. 神殿の奉献 54-66

54-61【54 こうしてソロモンは、この祈りと願いをことごとく主にささげ終えた。彼は、それまでひざまずいて、天に向かって両手を伸べ広げていた主の祭壇の前から立ち上がり、55 まっすぐに立って、イスラエルの全会衆を大声で祝福して言った。56 「主がほめたたえられますように。主は約束どおり、ご自分の民イスラエルに安住の地を与えてくださいました。しもべモーセを通してお告げになった良い約束はみな、一つも、地に落ちることはありませんでした。57 私たちの神、主が、私たちの先祖とともにいてくださったように、私たちとともにいて、私たちを見放さず、私たちをお見捨てになることがありませんように。58 私たちの心を主に傾けさせ、私たちが主のすべての道に歩み、私たちの先祖にお命じになった命令と掟と定めを守らせてくださいますように。59 私が主の御前で願ったこれらのことばが、昼も夜も、私たちの神、主のみそば近くにあつて、日常のことにおいても、しもべの訴えや、御民イスラエルの訴えを正しくかなえてくださいますように。60 こうして、ついに地上のあらゆる民が、主こそ神であり、ほかに神はいないことを知るに至りますように。61 あなたがたは、今日のように、私たちの神、【主】と心をついにし、主の掟に歩み、主の命令を守らなければならぬのです。】

この箇所はソロモンの祝福の祈りです。ソロモンは神が民と共にいてくださるようにと祈りました。そして、民が心を主に傾け、主のすべての道に歩み、主の命令を守るようにしてくださいと祈りました。そして、民の祈りに神が答えてくださることによって、地上のあらゆる民が主こそまことの神であることを知るようになるようにと祈りました。クリスチャンの祈りの生活は周りの人への証しとなるのです。

62-66【62 それから、王と、一緒にいたすべてのイスラエル人は、主の前にいけにえを献げた。63 ソロモンは主へのいけにえとして、牛二万二千頭と羊十二万匹の交わりのいけにえを献げた。こうして、王とすべてのイスラエルの人々は主の宮を奉献した。64 その日、王は主の宮の前庭の中央部を聖別し、そこで全焼のささげ物と、穀物のささげ物と、交わりのいけにえの脂肪を献げた。主の前にあった青銅の祭壇は、全焼のささげ物と、穀物のささげ物と、交わりのいけにえの脂肪を受け入れるには小さすぎたからである。65 ソロモンはこのとき、ともにいた全イスラエル、すなわち、レボ・ハマテからエジプト川に至るまでの大会衆と一緒に、七日と七日の十四日間、私たちの神、主の前で祭りを行った。66 八日目に王は民を帰させた。民は王に祝福のことばを述べ、主がそのしもべダビデと、その民イスラエルに下さったすべての恵みを喜び、心満たされて、彼らの天幕に帰って行った。】

ソロモンは神殿奉献式の最後に、多くの動物のささげ物をささげました。全焼のささげ物はささげる動物をすべて焼き尽くします。これは神への全き献身を表します。またやがて救い主イエスが、ご自分のすべてを神にささげて救いを成し遂げることを表していました。穀物のささげ物は全焼のささげ物と共にささげる物で神への感謝のささげ物です。交わりのいけにえは、大切な脂肪の部分は神にささげ、肉は民が食べることができます。この食事は神と和解した民が、神と親しい交わりを持つことを表します。またやがてイエスの十字架に死によって、私たちの罪が赦され、神と和解し、神との親しい交わりを持つことができることを表していました。今日私たちは、キリストを通して神との親しい交わりを持っていることを感謝しましょう。そして、私たちも自分を神にささげ、神に熱心に祈りつつ、神に仕える者となりましょう。